

時代区分	西 曆	年 号	月 日	事 項	
近 江	1836	天保 7		梁川大火 北梁川大半焼失 砂子堰泉原村片貝山に新堰水揚げ口と陰溝を掘さくする。 大凶作	
	1837	〃 8		5月、代官野村彦右衛門支配。(川俣本陣屋)	
	1838	〃 9		田口留兵衛、温暖蚕育法完成	
	1839	〃 10		京の加美俊輔天神町に学問所をつくり明倫館と名づけ子弟 60人に四書五経を教える。	
	1842	〃 13		3月15日大霜桑被害 9月、御料所改革取締触(梁川代官)	
	1843	〃 14		5月、島田帯刀桑折代官となり梁川は当分預りとなる。	
	1844	弘化 1		2月、代官福田八郎右衛門支配。(川俣本陣屋)	
	1847	〃 4		正月、代官石原清左衛門支配。 梁川村中村善右衛門、養蚕用寒暖計(蚕当計)発明	
	1849	嘉永 2		3月、代官藤方彦市郎支配。 中村善右衛門、蚕当計秘訣刊行。	
	1851	〃 4		信達二郡百姓一揆	
	1853	〃 6		7月、藤方彦市郎桑折代官となり梁川は桑折出張支配とな (梁川附は四ヶ村高五千九百石となる) 掛田に小作人の集まり出来る。(救惣連)	
	1855	安政 2		3月、荒井清兵衛梁川代官となる。	
	1856	〃 3		12月蝦夷地の替地として梁川村など松前藩の飛領となる。 1月 松前藩梁川奉行役人、蠣崎重郎右エ門他12名。	
	1858	〃 5		梁川村中井閑民、養蚕精義を著す。	
	1859	〃 6		横浜など三港開かれ、生糸、蚕種、茶など輸出、綿製品な どを輸入する。	
	1861	文久 1		8月4日梁川大火、市街概ね灰燼、天神社、明倫館類焼。 梁川村中村半三郎ら悪種販売を防ぐため養蚕講を組織して 蚕種銘鑑を著す。これによれば蚕種業を営む者梁川村が最 も多く信達253名中梁川村58名を数う。	
	戸 世	1863	〃 3		諸国に「ハシカ」流行、梁川でも50人ほど死亡。
		1864	元治 1		大霜。 阿武隈川、広瀬川、大水で被害甚大。
1866		慶応 2		4月、松前崇広病没し、甥徳広(志摩守)松前藩主となる。 信達騒動一揆打こわし(世直し一揆)信達180ヶ村で5 万人が参加(6月15日~20日)	
1868		明治 1	1 7 8・1	信達二郡 百姓一揆 戊辰の役 仙台の藩士若生文十郎ら梁川に駐留 仙台農民梁川に侵入、放火により大火となる	